

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3971000025		
法人名	有限会社 ラッセル社		
事業所名	あっとほ一む四万十		
所在地	高知県四万十市西土佐用井734番地		
自己評価作成日	平成28年1月18日	評価結果 市町村受理日	平成28年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者と家族との信頼関係を築き、自宅と変わらないような雰囲気作りをし、アットホームで過ごしやすいようなケアを心がけている。生活リハビリを中心に時間に縛られるのでない、ゆったりとのんびりした生活ができるように、一人ひとりのペースに合わせた援助をするように職員は心がけている。また、外出支援にも力を入れていて、ちょっとした買い物でも声をかけ誘うようにしたり、季節を感じられるような外出計画を立て、実行できるようにしている。いつでも出入りできるように、玄関は夜間以外施錠せず、入居者の意思を尊重して、柔軟な対応ができるように努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&jizyosyoCd=3971000025-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成28年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地区中心部から少し離れた住宅地にあり、近隣住民には古からの知り合いが多く、職員も利用者も顔見知りのため、散歩をすれば声をかけてくれている。毎年のマラソンイベントの通過道に近く、イベント時はランナーを応援し、ランナーからも声をかけてもらうようになって、地域の事業所として定着している。

職員は、利用者が「自分らしく生きられるよう、地域とのつながり、利用者への尊敬、介護の質を大事にする」という趣旨の理念に沿って、利用者と一緒に生活の支援に努めている。生活リハビリを念頭に、利用者には食事の準備や入浴時のモップがけ等、可能なことをしてもらい、車いすを使用する利用者にもトイレ誘導時には少しでも歩くことを勧めて介助し、機能を維持できるように支援している。また、利用者の尊厳を守ることに重点を置き、不適切な言葉遣いや、配慮の足りないケアがあれば、管理者だけでなく職員間でも注意しあい、利用者には不愉快な思いをさせないよう、職員同士の話し声や職員の小走りの動作にも注意を払うなど、利用者本位のケアを実践している。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも見える所に企業理念を貼り、またそこに認知症ケアの原則も書いているので、常に職員間で共有し、支援につなげている。	「自分らしく生きられるよう、地域とのつながり、利用者への尊敬、介護の質を大事にする」という趣旨の理念のもと、利用者がやりたいことを見つけながら、職員はスタッフ会やケアカンファレンス等で理念を共有し、ケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事に参加し、地域に溶け込むようにしている。会合などには参加できないが、協力金という形で地域に協力している。地域の方より野菜をいただいたり、事業所のお米は、地域の方より分けてもらい利用している。地区の方も気軽に声をかけてもらっている。	地域の祭りに餅投げや「子供みこし」が出るときは、利用者は職員と一緒に参加し住民と交流している。職員や利用者は近隣住民とは顔なじみであり、散歩の時には挨拶を交わしている。近所の人や退居者の家族等から、野菜等のおすそ分けもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの質問や相談には、いつでも気軽に応じている。地域の行事に参加するなどして、触れ合えるように努力している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や、事業所の取り組みについてなどを報告し、意見交換をしている。区長さんなどから地区の行事などは聞けるが、あまり意見が出てこず、経過報告になることが多い。また参加者も仕事の関係で、なかなかそろわない。	会議には、区長・地域包括支援センター・市職員・利用者・ケアマネジャー等の参加があり、事業所から活動報告を行っているが、意見交換はあまり活発ではない。家族には来所時に議事録を手渡すようにしている。	会議の議題を事業所から提案し、内容に応じて消防署や老人クラブにも参加を依頼するなど、専門的立場からの幅広い意見や協力を得る工夫をするとともに、議事録に意見の記載が増えることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査や運営推進会議で事業所に来てもらい、状況を話したり、行事などの情報ももらっている。また何かあればすぐに連絡をして意見を聞くなどしている。	運営推進会議や介護認定調査時に事業所の状況を伝えている。介護認定調査の調整や食事の献立のことなど、日常的に相談しやすい関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については常に気をつけている。施錠については、利用者の就寝後に行なっている。スタッフ会議などで話し合い、どうしても必要と判断した場合は、家族とも話し合い、同意を得るようにしている。	事業所の「身体拘束排除マニュアル」を使って学習し、利用者のベッドからの転落リスク等、職員が対応に困ったことがあれば、その都度対策を話し合い、拘束のないケアに努めている。昼間は玄関に施錠はせず、利用者と同じ高さの目線で話し、拘束感を与えないよう言葉遣いにも気をつけている。	身体拘束や虐待に関する外部研修にも参加し、身体拘束への弊害や対応策について、さらに理解を深めていく取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	テレビで時々虐待のニュースなどがあるが、そのようなときに、スタッフ会議で取り上げ、勉強している。言葉の虐待もあるので、常に気を付けている。職員間で、意見交換している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が理解していないが、管理者が市の職員などと相談し、ネットなどで情報収集して対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書と重要事項説明書を説明している。家族からの疑問点を聞いたりして、準備時間を取り説明している。改定等があるときは、その時々で説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は設けていないが、利用料の支払いをホームに来てもらっているため、その時に意見を聞いたり、プラン変更の時に、ケアマネジャーが意見や要望を聞いている。年に一度納涼祭かクリスマス会で家族を招き、その時に話し合いをしてもらうようにしている。しかし意見があまり出てこない。	事業所の納涼祭に合わせて家族会の開催を呼びかけ、3～4家族が参加している。これからは家族会の案内をしてほしいという要望は出ているが、家族のみの話し合いの場の設定はできておらず、意見・要望も出ていない。	家族は多忙等の理由で運営推進会議等への参加も少なく、意見や要望もあまり出ていないが、家族同士の話し合いも含め、意見や不満、要望等を率直に言える機会を増やしていくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者ごとに担当を決め、スタッフ会議で意見を聞いている。職員から行事などを提案してもらい、反映させている。利用者の担当は、3か月に一度変更をし、いろんな目線で見えていくようにしている。	代表者も参加するスタッフ会や申し送り時に職員の意見を聞き、支援に活かしている。職員からは、花見等行事内容についての提案がされ、サービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ会議などでコミュニケーションをはかり、意見を聞いて環境整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉協議会などから研修などの情報をもったり、市での研修などがあり、職員の意見を聞いて、参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会議に参加したり、同地域内の施設及び診療所などを含めた担当者会議に参加したりして、交流を深めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問聞き取りをして、生活状況を聞いたり、病院や家族より話を聞き、入居時より安心して利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望を聞いて、ホームでのサービスに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に聞き取りをし、また地域の介護支援専門員や関係する専門職の方々と連携し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者本人に出来ることはして貰い、掃除を一緒に行ったり、調理の手伝いなどしてもらい、お互いが協働して過ごしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>訪問面会時や必要時には、入居者本人の状況を伝え、何かあれば相談し、安心して生活できるよう情報を共有し、協力を得て対応している。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>お祭りや地域の行事に参加したり、またドライブなどで地元に行ったりしている。本人や家族の要望に出来るだけ応じれるように対応している。</p>	<p>地域の産業祭・納涼祭・福祉大会等に利用者と一緒に参加したり、ドライブで自宅近くに行ったときに、馴染みの人と会って互いの近況などを話し、関係継続を支援している。また、事業所への訪問理容により、新たな馴染みの関係ができてきている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>他施設に移られた方の様子を見に行ったり、病院などで見かけたときなど、声をかけせてもらったりしている。家族の方にもこちらから声掛けし、気さくなお付き合いをさせてもらっている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>お祭りや地域の行事に参加したり、またドライブなどで地元に行ったりしている。本人や家族の要望に出来るだけ応じれるように対応している。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>表情や言葉から意思の疎通に努め、本人の意思を伝えやすい環境づくりをしている。また、家族や関係機関などから情報をもらい、本人の意向や希望に添えるように努力している。</p>	<p>利用者の言葉だけでなく、表情や仕草の雰囲気から気づいた意向や思い等について、申し送り時に職員同士で情報交換し、ケース記録に記載して、継続した支援ができるよう努めている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に自宅などを訪問し、生活状況や趣味などを聞かせてもらっている。また、入居時には、関係機関などから情報をもらい、今までの暮らしの経過などを把握している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの把握と、日々の個人記録などを確認している。また、申し送りなどで気づいたことなどを報告し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人はもちろん、家族の方にも思いや意見を聞かせてもらい、介護計画に反映させている。日々の申し送りやスタッフ会議、ケアカンファレンスなどで話し合いをし、介護計画に生かすようにしている。	介護計画は本人・家族の意向や、ケアマネジャーによるモニタリング結果を踏まえ、職員全員が参加してカンファレンスを行い、作成している。計画の見直しは入居時は1カ月、定期は3カ月ごとに、状態変化時は随時に行って、本人の状態に即した内容となるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を、個人記録に午前と午後で記録している。夜間に関しては、職員が一人になるので詳しく記録している。問題などがあれば、申し送りで報告し、話し合いが必要であれば、すぐに会議をし計画の見直しなどを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて通院送迎や買い物支援など、柔軟に対応している。利用者や家族の負担にならないように、臨機応変な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で参加者より情報を得たり、地区の活動に参加し、回覧板などで地区の行事などを見て、利用するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の診療所の医師とは、何かあればすぐに連絡を取り、指示を仰いでいる。また家族や本人の希望するかかりつけ医がある場合は、相談協議して希望に添えるようにしている。	受診が便利で、緊急時に連絡をとりやすいため、全利用者が希望して協力医療機関をかかりつけ医としている。事業所が受診を支援し、結果を家族に報告している。職員間は申し送りや受診記録、ケース記録で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護職員はおらず、また訪問看護も市の診療所しかなく、受けられない。受診時にバイタル表やケース記録を持参して相談指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が不安にならないよう、できるだけ面会をするようにしている。また医師と連絡を取り、ホームでの対応可能な状況を話し合い、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態にもよるが、家族と相談協議をして決めている。医療行為での入院以外は通院や往診にて、できる限り対応するようにしている。常に関係機関と連絡を取り対応している。	現在の職員体制では、医療措置が必要な場合に事業所での看取りが困難であることを家族に説明し、職員間でも認識している。重度化しても、できる限り事業所で過ごしてもらう方針であり、かかりつけ医との連携を図り各種検査値も参考に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けたり、救急への通報訓練をしたりしている。また、何かあれば協力医である診療所に連絡をし、医師や看護師から指示を仰ぎ迅速に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災総合訓練は年に一度は行い、その他に避難訓練なども行っている。またベランダからも車いすで避難できるように、一部改良したりして迅速に避難できるようにしている。地区との連携も取れるように、区長とは話し合っている。	消防署の立ち合いにより、地震による火災発生を想定して訓練を実施している。今年度の訓練には区長の参加は得られなかったが、緊急時には協力を得ることになっている。水・白米・インスタントラーメン等を用意し、消費期限のチェックを月1回行っているが、備蓄量を検討する必要がある。	運営推進会議を活用し、地域住民の協力を得て訓練を実施できる方法を検討することや、備蓄量を確認し県の防災マニュアル等を参考に必要量を備蓄していくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げているように、高齢者を尊敬するという考えのもと、人生の先輩として尊敬の念を持ち、一人一人を尊重している。言葉遣いや行動にも注意を払いケアを行っている。	新規の職員には、トイレ誘導時は他の利用者等が気付かないよう声を掛けることなどを研修し、利用者への馴れ馴れしい話し方があれば、職員間で注意し合ったり、スタッフ会等でも利用者の個人名を出さないなど、利用者一人ひとりを尊重したケアを実践している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人に合わせた声掛けや、表情や行動を読み、自己決定しやすい雰囲気作りをしている。利用者の方が自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、利用者の気持ちや体調を尊重して対応している。共同生活を考慮したうえで、可能な限り希望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際などに入居者と一緒に選んだりして、本人の意見を取り入れ支援している。同じものばかりにならないようにもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや、野菜の下ごしらえなど、できることの協力を得ている。食事については、季節の物や、地元の食材を利用して作り、入居者と職員が同じテーブルで会話をしながら一緒にしている。	診療所の管理栄養士にカロリーや献立の相談をし、いただき物や良心市に出る地元の旬の食材を使って食事を作っている。利用者もテーブルや皿を拭いたり、野菜の下ごしらえをし、職員は同じ食卓で話しかけながら、食事を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェック表で個々の食事量を把握するように努めている。個々の好みも把握するようにして、提供している。水分は、お茶以外でも対応し、摂取量を把握し情報を共有して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがいを徹底している。また、歯磨きやうがいの困難な方は、口腔ケア用のウェットティッシュにてケアしている。義歯の方は夕食後は外してもらい、週に2回は洗浄消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとり、排泄チェック表でリズムや習慣の把握に努め、声掛け誘導をしている。日中はパンツにパッドでの対応にして、オムツ使用者については、適時チェックをして交換を行い、清潔保持に努めている。	尿漏れのある利用者には紙パンツを使用しながら、トイレで排泄できるよう自立に向けた支援をしている。入院先でおむつを使用していた利用者が、手引き歩行によるトイレ誘導を通じて、紙パンツに変更できた事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や水分補給に気を付けている。散歩やホーム内での生活リハビリで自然排便を促している。便秘のひどい方は、医師と相談をして、個々に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日声掛けをして、入居者の希望で入浴できるようにしている。2日以上入らない日がないように注意をし、時間帯も決めずに希望があれば対応している。	外出予定や便失禁のあった時などは、午前中からの入浴も出来るようにしている。利用者には毎日、入浴への声を掛け、利用者の希望に合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態を把握して、本人のペースに合わせて休息できるようにしている。薬剤の使用は医師の診断のもとで使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の医療情報ファイルを作り、医療情報をチェックし、薬の変更等があれば申し送りにて伝え、確認をしている。薬に関しては、薬局にて一包化してもらい手渡しし、服用できているか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に応じて、洗濯物たたみなど、できることをしてもらっている。養命酒や食前酒等の嗜好品は自由にしてもらっている。DVDを借りてきてテレビで見たりもしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、散歩やドライブなどに出かけている。また、お花見や納涼祭など季節を感じられるように計画をして、外出するようにしている。近所の散歩では草花を摘んで帰ったりもしている。	買い物に行く時には利用者と一緒にドライブし、花見・餅まき・広場のイベント等にも出かけている。天気や気候の良い時には、事業所近くを日常的に散歩している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望や必要に応じて、ホームで立て替えて一緒に買い物したり、お金を渡して支払いなどをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より希望があれば、電話や手紙など自分でできる人はしてもらい、できない方は職員が代わりにやっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の状況に応じてカーテンを引いたり、ゴウヤを植え緑のカーテンしたりしている。冷暖房での温度管理をし、季節の花を活けたりもしている。また、季節に応じた飾りつけ(鯉のぼり、七夕、クリスマスなど)をしている。	居間にはテレビの周りにソファを配置し、ゆったりと会話を楽しむことができるようにしている。季節行事に合わせた飾り物が置かれ、季節感にも配慮している。また、クリスマス時期のイルミネーションは利用者だけでなく、地区の人たちにも喜ばれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで気の合う方とお話したり、テラスで日向ぼっこをしたりしている。また畳の間で横になったり、居室にて休んだり好きなところで過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人や家族の方に話をし、使い慣れた物や思い出の物を持ってきてもらうようにしている。カレンダーを飾ったり、家族の写真などを連れてきてもらい飾ったりしている。	各居室のベッドは備品であり、利用者に合わせて使いやすいベッドを使用している。各居室には仏壇や使い慣れた筆筒等が持ちこまれ、歌謡ショーに参加した時の写真等も飾るなど、それぞれの利用者の好みを反映した居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段に手すりをつけ、安全で自立して生活が送れるようにしている。トイレには貼り紙、お風呂場入り口には暖簾をするなどして、すぐにわかるようにしている。居室入口にはネームをつけて、誰にでもわかるようにしている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				